

創業70年の佐元工務店

7月に創業70年の節目を迎える佐元工務店（仙台市 佐藤真生代表取締役）は、周年事業の一環として仙台市若林区古城3丁目に新社屋を移転新築する。7月に着工し、2026年2月の完成を目指す。実施設計はDOG一級建築士事務所（東京都新宿区 齋藤隆太郎代表取締役東北工業大学准教授）が担当した。

建設用地は国道4号仙台バイパスと宮城の萩大通りが交わる仙台市若林区古城3の14の15地内の角地で、敷地面積は約19

完成パース



内観



30平方メートル。計画によると、ここにW造2階建て、延べ727.61平方メートルの新社屋を建設する。建設に際しては宮城県産材や県産CLTを使用する県単独補助のみやぎCLT普及促進事業補助金を活用する。

建物の特徴は、屏風（びょうぶ）に見立てた壁に最大制作寸法6000ミリの宮城県産CLTを最大限生かし、2階建ての水平力負荷構造「通し壁」とするほか、CLT壁の上端ラインを揃えることを前提とした屋根架構とし、CLT屏風壁を境に寄棟形式と谷勾配の流れ屋根形式とする。

CLT使用し地域に開かれた新社屋建設へ

建物内部は事務所やショールーム、グリーンショップのほか、地域に開かれた会議室などを設け、地域の交流スペースとしての役割も果たす。

7月14日にイベント開催

また、同社は7月14日にJR仙台駅前の商業施設・仙台パルコ2の映画館で100年企業を目指したローンチイベントを開催する。今後も地域の生活者や地元企業に対し「より良い暮らしと営み」を提供し続けていくために『この地に根差し この地を愛し この地で活きる』をテーマとした新ブランドを発表するもの。

1955年創業の同社は東北大学の営繕工事から事業をスタートし、民間のリフォーム、注文住宅、賃貸住宅と扱う幅を広げ、現在は大型建築や公共工事等まで手掛けており、近年は▽リフォーム・リノベーション▽注文住宅▽建設の3本柱を展開。今後も建設業の枠を超えた『快適生活環境創造業』として、土地や建物の困りごとのみならず、暮らしそのもの（衣食住）に関わるさまざまなニーズに“ワンストップ”で応える会社を目指すとしている。